

会 師 医 小 牧 市 苦

医 師

野 中 富 夫

目薬の話

洗眼と目薬(点眼薬)は眼科診療では、おなじみのことだと思います。だれでも良く知っています。まず洗眼についていいますと、今でも目を洗ってくださいますといってくる患者さんがいますが、目を洗うのも時と場合によります。

最近ほとんど洗眼は行いませんが、なぜでしょう。それは涙との関係が深いのです。涙は

結膜(しろめ)と角膜(くろめ)の表面に涙の膜を作って外からの感染を防ぎ、異物を洗い流しているのです。だから不用意に洗眼するのは誤りです。ただし、大量のほこりをかぶったり、薬品が入ったりした場合は洗眼を行います。せつかく、結膜や角膜を涙が保護してくれているのに、それを洗い流してしまっからです。

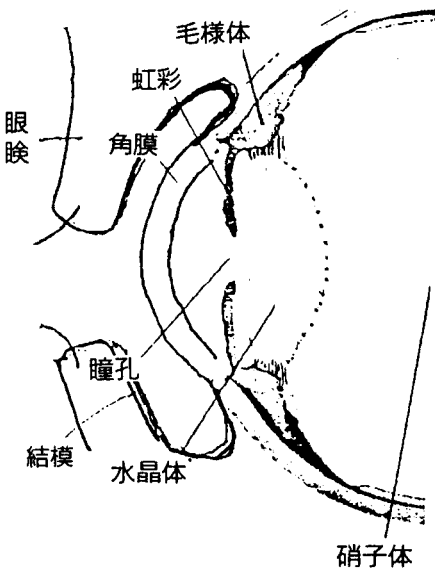
点眼の前には良く手を洗う

次に目薬についてお話します。「疲れた時には…」「目をすっきりさせる」などとテレビのコマーシャルにしばしば登場する市販の目薬はあまりにも身近で、不用意に使いがちですが、これらは症状もまちまちの不特定多数の人が使うのですから、最も無難な薬品が使われています。しかし、これとても漫然と使いますと、やはり害があります

す。例えば、血管収縮剤の入っているもの、時には防腐剤が角膜の表面の細胞を傷めます。

目薬は、しみる、しみないが問題となりますが、それは涙の水素イオン濃度(PH)と関係があります。正常でおよそ7・4、しかも涙が中和してくれまからPH6-9程度ならば問題がないのです。目薬にはいろいろなものがあり、消炎剤、栄養剤、抗生物質、副腎皮質ホルモン剤、抗菌剤、抗ウイルス剤(ヘルペス治療薬)、縮瞳剤、散

眼球の断面図



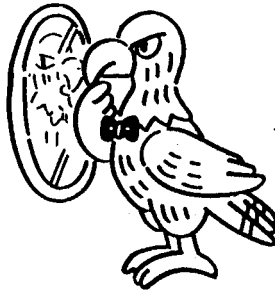
眼 睑

目薬の話

瞳剤、麻酔剤、さらに最近話題となつている乾性角膜炎（ドライアイ）に対する人工涙液など必要に応じて使われる訳ですが、薬は使いようで一歩誤ると大変厄介なことになります。眼圧が高い緑内障の人に散瞳剤のアトロピンを点眼すると、より眼圧が高くなつてしまいます。また、目が痛いと訴えているからといって麻酔剤のベノキシールを続けて点眼してきますと、角膜の表面（角膜上皮細胞）を傷めやすくなります。目薬は使い方が大切です。眼科で診療を受け適切な点眼薬を処方してもらい、指示された回数を守ることが大切です。

また点眼の前には良く手を洗うこと、使い終わったらきちんと保管すること。直射日光を避けること。家族間での共用はしないこと。二種類の目薬を同時に使う場合には一つの目薬をさした後、一、二分の間隔をおいてから次の目薬を点眼するよう

に。また、小さな子供の場合にはお母さん一人では無理なことがありますので、他の人に手伝ってもらつても必要です。いずれにせよ、確実に点眼されることが大切です。



お問合せは、苦小牧市医師会
電話 33-4720へ